

A young child with dark hair, wearing a white hospital gown with a colorful pattern of rockets and stars, is looking towards a doctor. The doctor is seen from the back, wearing blue scrubs. The background is a clinical setting with a computer monitor.

PHILIPS

Healthcare

超音波診断装置

第7回 Philips 超音波診断装置 Webセミナー 「下肢動脈の検査と治療」

日時：2020年9月16日（水）18:30-19:30

ご講演①

末梢動脈エコーのポイント —検査の実際と評価方法—

演者：八鍬 恒芳 先生

(東邦大学医療センター大森病院 臨床生理機能検査部)

ご講演②

4D血管エコーによる治療

演者：滝村 英幸 先生

(総合東京病院 循環器内科 医長)

第7回 Philips超音波診断装置Webセミナー 「下肢動脈の検査と治療」



ご講演①

末梢動脈エコーのポイント ー検査の実際と評価方法ー

演者：八鍬 恒芳 先生

(東邦大学医療センター大森病院 臨床生理機能検査部)

内容紹介：

下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）に代表される末梢動脈疾患のエコーは、比較的時間がかかる検査であり、評価法も未だに統一されていない現状がある。臨床で広く活用し血管内治療（EVT）などの血管治療に役立てるには、統一された検査方法や分かりやすい報告書作成が重要である。今回、検査法と報告書の実際を提示し、エコーのコツや代表的な病変の評価法を解説する。また、検査室として、血管治療にエコーをどのように役立てているかも述べる。



ご講演②

4D血管エコーによる治療

演者：滝村 英幸先生

(総合東京病院 循環器内科 医長)

内容紹介：

下肢閉塞性動脈硬化症や深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、透析シャントの評価において、血管エコーはなくてはならない診断ツールである。主にBモード、カラードプラ、パルスドプラを用いるが、そのクオリティこそが超音波装置に求められるものである。また血管エコーは治療ツールとしても有効であり、以前よりエコーを用いたカテーテル治療を積極的に行ってきた。これまでは2D画像を頼りにしていたが、立体的な画像診断が可能となった現代において血管エコーも3D,4D画像を得ることができるようになった。今回4D画像を活用した治療の実際について紹介する。

【日時】

2020年9月16日（水） 18:30-19:30

【お申し込み方法】

こちらの[リンク](https://philips.to/2x8sSRo)か、または右のQRコードよりお申込みください。

<https://philips.to/2x8sSRo>

- なお、当日はビデオ配信となります。
- ご登録いただくとセミナー開催日より9月末までオンデマンドにて視聴いただけます。

製造販売業者

株式会社フィリップス・ジャパン

〒108-8507 東京都港区港南2-13-37フィリップスビル 0120-

お客様窓口 556-494

03-3740-3213

受付時間 9:00～18:00

(土・日・祝祭日・年末年始を除く)

www.philips.co.jp/healthcare

